

連文

R E N B U N

の
Vol. 95
2013.8



新会長あいさつ

【○日誌○報告report】

第60回 けしけし祭

第11回 ジュニア青木繁展

第49回 久留米短歌大会

第47回 仲縄忌俳句大会

第59回 久留米茶道連合会大茶会

久留米連合文化会

就任のあいさつ

平成25年度久留米連合文化会定期総会では役員改選が行われ、会長に木村清吾さん(芸能部門)、副会長に谷川章子さん(文芸部門)、江口登さん(美術部門)、川口一幸さん(芸能部門)、山下寿京さん(華道部門・再任)、結城翠泉さん(茶道部門)が選任されました。

会長 木村 清吾



第6部門の展開を

森史陽前会長を引き継ぎました木村です。私の任期中の目標は三つあります。一つ目は総会で承認いただいた第6部門である総合文化部門の展開です。連文への入会が会員2名の推薦で入会できるようになり、文化に情熱のある人を受け入れることができるようになりました。また現在連文会員である人が今の部に籍を置き第6部門に入会されてくることが考えられます。その場合より容易に入会できるようにいたします。そして2

部門に入会されている人は現在年会費を15000円頂いておりますが、これを見直したいと思います。

二つ目は27年度にオープンする総合都市プラザ(仮称)での連文事業の展開です。プラザでの連文事業の予定は現在のところ年間62事業です。オープニングに向けて積立をしておりますが、連文会員がプラザを使って催事をする場合、使用料の一部を助成することを考えています。プラザがオープンするまでに具体化したいと思っています。

三つ目は三藩・城島・北野・田主丸の文化協会との交流です。交流事業の具体化に取り組んで行きたいと考えています。

いずれも会員皆様のご協力がなければ実現できません。どうぞ宜しくお願いいたします。

副会長 谷川 章子(文芸部門)



久留米は雄大な筑後川の流れ、幸多い耳納山麓など大自然に恵まれております。また史跡や文化遺産も多く、どこを訪れても心安らぎ、また心を打たれます。このように恵まれた環境の中で生まれる芸術文化活動は、果てしない可能性を秘めているはずです。

久留米には、錚々たる芸術家、作家が

副会長 江口 登(美術部門)



この度、美術部門(洋画)より副会長を引き受けることになり、責任の重さを

を感じております。

久留米連合文化会は終戦直後の昭和24年に創設され、創立60周年記念行事では各部門が垣根を越えた「連」を唱ってコラボレーションをさまざまな形で展開しました。そこで連文は先人が築いてこられた数々の実績と歴史の伝統を引き継ぎながら邁進しなければなりません。

文化芸術は一夜にして達成できるも

居られ、連文創設当時の先輩の方々の情熱とご尽力に心を馳せるとき、身の引き締まる思いがいたします。

目まぐるしい現代社会の中で、現連文会員として伝統の灯を守り継がねばと思います。総会の折の資料を再読し、先ず現状をよく知り、会員の皆様がどのような連文にしたいのかお一人お一人の考えをお寄せいただき、各部協調しながら、より良い連文になればと願っております。

のではなく、一歩一歩風土を育てながら「刻」の繰り返しによって、地域の文化芸術が飛躍するものだと思います。

そして組織は人なりのです。今後、組織拡大につなげるためには、連文全体としてのアピールをしながら若い人を育てることが使命でもあります。そして会員ひとり一人が不断の努力と研鑽によって、個性ある作品や演技を創作・発表する姿そのものが、文化の振興につながるものと確信します。

今後さらに地域に根づいた芸術振興に邁進しますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

副会長 川口 一幸(芸能部門)



芸能部門は、
謡曲・邦楽・洋
楽・映画演劇・
日舞・洋舞・民謡・
吟詠の8部で構

成され、久留米市及び福岡県内外で、芸術・芸能の発展向上を目指して、文化活動を展開しております。舞台公演になれば、部の特色がそれぞれ異なり、部の奥行き、深さの違いが表現されており、私は今後、8部の特色をこれまで以上に理解できますように勉強し、芸能部門の会員の皆様のお役に立ちますよう努力いたしますので、よろしく願います。

副会長 山下 寿京(華道部門)



一期の任務を終え、何かの役に立てたろうかと反省の傍ら、これほど真

剣に連文のことに向き合うことが出来たことは貴重な体験だったと感謝しています。運営の難しさ、厳しさも思い知らされました。部門は異なっても、お互いの立場を理解し、連携してゆくことも重要だと思っています。

会員華道展を9月4日より開催いたします。会場にはジュニアの席や一般の

たします。

文化の多様化で各部に会員減が出ており、特に「古典もの」は若い世代の入会が少ない状況です。今後は会員増のことも考えていきたいと思っています。

平成28年に六ツ門町の総合都市プラザ(仮称)が完成しますと、メインホール、サブホールを芸能部門で利用される機会が多くなると思われます。各部のご精進、ご努力、ご活躍を祈っております。

副会長は各部門を代表して木村会長を補佐し、創立70周年に向かって前向きに活動いたします。

人の体験コーナーを設ける計画もあり、少しでも地域文化の発展向上に資することができたらと願っています。10月には、福岡三越で日本いけばな芸術九州展もあり、連文会員からも出品されます。

まず気持ちも新たに情性的にならないように、個々の活動はもとより、各流派とともに会員にふさわしい人材の育成に力を入れ、明日の会員増強を目ざしてゆくことも大切な務めだと思っています。皆さまのご指導を宜しくお願い申し上げます。

副会長 結城 翠泉(茶道部門)



この度、副会長を拝命いたしました茶道部門の結城翠泉と申します。副会長

をお受けいたしましたものの、果して皆さまのお役に立てますかどうか案じておる次第です。私なりに頑張つて参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

連合文化会各部門との交流があまり出来ておりませんので、茶道部のことを少しお話しいたします。茶道部には、抹

退任のあいさつ

森 史陽(美術部門)



この度、5月18日の定期総会において、会長職を退任いたしました。多くの

会員の皆さまに支えられて、無事終わることができました。心より感謝申し上げます。

省みれば3年前、柿原会長の突然のご退任で残りの就任期間をまかされたのですが、その托された仕事は運営方針4「文化の多様性に対応した体制を確立し、会員増を図る」の命題でした。たいへん難しい課題でしたが、これを成し遂げることが私の役割と考え、具体策ができることで会長職の任を終え

茶と煎茶があります。煎茶は主に玉露手前ですが、その中に礼儀作法が入っているお流でございます。抹茶には、裏千家、江戸千家、表千家、大日本茶道の四流があり、これに煎茶の小笠原流を入れました五流で一年間の行事を行っております。茶道部は、この五流の先生方がお茶会などで助け合い、仲良くしている組織です。

連合文化会の皆さま方には、この茶道部のことをご理解くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

と考えていました。

そのためには、連文全体のことを考えることのできる人を組織することでした。それが会長指名の企画運営委員会の設置でした。委員の方々には検討委員会を含めて3年間、精力的に議論していただきました。こうして出来上がったのが、第6部門の総合文化部門です。これは連文始まって以来の画期的な機構改革だと思っています。この部門をぜひ開花させていきたいと思います。木村新会長にお願いいたします。

その他、東日本大震災の復興支援、緑の追想公演、総合都市プラザ建設推進等が記憶に残っています。皆さまのご尽力、ご協力に深く感謝いたします。

文化協会会長が連文理事に

定期総会で承認された規約改正によつて、三瀧・城島・北野・田主丸いわゆる旧4町の文化協会の会長に連文の理事を務めていただくことになりました。

これまで以上に相互の連携・提携を強め、ともに地域文化の伸展・興隆に努めていこうという趣旨によるものです。

4町の文化協会会長にそれぞれの協会のご紹介をお願いしました。

北野町文化協会 下川 アキミ



北野町文化協会は、創立30周年を過ぎてまた新たな一歩を踏み出し、生涯学習を基本として、生き甲斐のある心豊かな人生を送るため、会員みんなで文化活動を展開しております。

これから先、芸術文化の果す役割はますます重要になるのではないのでしょうか。そのような折に、旧4町の文化協会の会長が久留米連合文化会の理事に就任することになりました。お互いの意見・情報の交換と融和を図り、連携して行きましょう。どうか宜しくお願いいたします

城島文化協会

境 二三子



平成元年4月29日、文化薫る古里づくりをスローガンに、城島文化協会が

産声をあげました。発足当初の念願だった複合文化施設も、節目の10年目にオープンしました。インガットホールです。そして今年、25年目を迎えました。作品部門8、芸能部門16、会員300名、こじんまりとした協会です。

でも個性豊かで、内容も充実した協会であろう……と自負しています。◎企画(総会、文化祭)◎視察研修(他市町との交流、視察)◎探訪(探訪旅行)◎編集(会報誌発行、広報)の4つの委員会のいずれかに、三役、事務局、理事、24部門の部長が属し、年間行事を行っています。2月の酒蔵まつり、5月の博多どんたく港まつり、8月の久留米水の祭典、9月の城島まつり等々、町内外のイベントにも楽しく参加させてもらっています。

城島文化協会はやっと成人式を迎え、自分達の足で歩き出したばかりです。先輩の協会の皆さまのお力とお知恵をお

三瀧文化協会

喜田 一博



三瀧文化協会の会長を勤めています。この度、久留米連合文化会の理事に就任

することになりました。何も分らないことばかりと思いますが、一生懸命勤めてまいります。

三瀧文化協会は昭和56年に発足しました。私も同時に入会して32年になりましたが、その間に部長の役をいただき、平成十年には副会長となり、さらに17年には会長に就任、現在8年目を迎えることができました。私がこんなに長く続けられたことは、役員そして会員の皆さんのご理解とご協力があつたからだと思えます。初代会長・木下正美氏(元町長)から数えて、私で七代目になります。

発足した年の会員数は473名(延で525名)でした。現在は高齢化で会員数も少なくなり、400名を少し切るようになってきました。そこで文化協会では、子供たちを中心に、小学生、中学生にも声をかけ、入会してもらえよう働きかけています。今年度になり、会員数も

少し多くなってきました。

会員には久留米連合文化会のことがよく分かっていません。この度、理事の大役を受けましたので、会員の皆さんともよく話し合い、協力を努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

田主丸町文化協会

上野 恵美子



すがすがしい初夏の季節を迎え、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、田主丸町文化協会は、久留米連合文化会より理事就任のご依頼をいただき、このたびお受けいたすこととなりました。

田主丸町文化協会は、41団体、700名の会員で構成いたしており、会員団体への活動補助金の支出や独自の主催事業を企画開催し、また町民文化祭の実行委員を主体的に担うなど文化協会としての活動を展開いたしております。

久留米連合文化会の理事に就任したばかりで、明確に抱負をお示しすることはできませんが、知見を踏まえ、本文化会の発展に務めて参る所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

新体制での出発

平成25年度

定期総会・受賞者祝賀会

平成25年度の連文定期総会が5月18日(土)午前10時より創世にて開催されました。

- 第1号議案ー平成24年度久留米連合文化会事業報告並びに決算承認について
 - 第2号議案ー平成25年度久留米連合文化会事業計画並びに予算案について
 - 第3号議案ー規約改正案3件について
 - 第4号議案ー役員改正案について
- 以上の提案・審議が行われ、いずれも可決・承認されました。

表彰式では、連文功労賞5名、久留米文学連文賞4名、会員美術展連文会員賞11名、芸能・華道・茶道部門連文会員賞8名、永年50年表彰者1名、同30年表彰者17名の方々が表彰されました。

次に平成24年度以降入会の44名の新会員と、規約改正によって新しく理事に就かれた旧4町の文化協会会長の皆さんの紹介がありました。

総会では木村清吾会長ほか5名の副会長を選任し、新体制での出発となりました。

正午からの受賞者祝賀会には、5名の久留米市芸術奨励賞受賞者(連文第94号で紹介)と久留米市ふるさと市民賞の権



藤元二郎さん(映画演劇部)を招き、喜びを共にしました。
(事務局)

久留米市表彰

平成24年度ふるさと市民賞

3月9日(土)、社会福祉、教育、文化、消防その他地域の振興に貢献し、市民が愛するふるさと久留米のまちづくりに寄与している人の功績をたたえるふるさと市民賞の表彰式が行われました。

連文会員では映画演劇部の権藤元二郎さんが受賞されました。

久留米市ふるさと市民賞を受賞して

映画演劇部 権藤元二郎



私の仕事は舞台の裏方です。狂言方(舞台監督)、大道具方、小道具方、衣裳、床山、鳴物師、舞台照明係、音響効果係などいろんな裏方の仕事のなかで、私は舞台照明を担当しています。舞台照明で一番大切なことは「見せる」ことです。舞台に立つ役者、背景、小道具などをきちんと見せること、季節、時間、場所などを光を通して感じさせることです。

しかし私たちの仕事が見えたり聞こえたりはしません。舞台で演じられてい

るものへの評価が、そのまま私たちへの評価になると信じて頑張っています。そんな裏方の仕事に認められての今回の受賞は、いっしょに働く後輩たちへの大きな励みともなり、大変ありがたく思っております。

指定管理者制度によって久留米市民会館も民間の会社が管理することになり、一時期、私は館長に就きました。館長としての、市民会館を文化芸能の拠点とするための事業をいろいろ始めましたが、その一つにアマチュア劇団の立ち上げと運営があります。

久留米ではすでに、出演者を公募しての演劇公演がいくつか行われていました。しかし、公演が終わると劇団は解散してしまい、演劇がやりたくて参加していた人たちはがっかりしていました。そこで、継続して演劇を楽しめる劇団を立ち上げようと呼びかけますと、高校生から70歳過ぎの方まで50人以上が集まりました。今も25人が活動しています。

劇団は久留米市民会館からも支援を戴き、会館を拠点に練習を重ね、今年4月には4回目の公演を行いました。また学童保育所、老人倶楽部、保育園などでのアウトリーチ公演も積極的に行っています。今回の受賞にはこの活動も含まれていると思います。これからも仲間とともに久留米の文化の発展に寄与できるように頑張つて参ります。

総合文化部門 新設の経緯

連文創設時、創始者たちはそれぞれに若く、自由奔放な雰囲気の中で意見交換が行われ、礎を築いていったのである。まさに若さゆえのしなやかさと強さに満ち溢れていたのである。

会員平均年齢67歳となり、沈滞、爛熟し、会員減少にも歯止めがかからない会を再生させたいという思いは各々に共通のものであった。しかし具体的な手立てということになると各部それぞれの事情等に阻まれ困難なことだった。

そこで「招待の記」を読み直したのである。創設時の会を髣髴とさせる気迫に満ちた文章に私たちは打ちのめされた。そこにあつたのは以下の文章である。

― 会が今もつともおそれているのは、当地方の文化人としての触覚、意志、熱情等を有する人々に対して、漏れなくしかも充分に礼をつくして、入会の招待を行つたであらうかということである。要は久留米の文化の上昇であり、良識の結集による封建制と非文化への挑戦である。―

それは創始者たちの紛れもない意志だった。原点に回帰してみようか、そんな思いにも駆られ連文再生への挑戦が始まったのである。

以下に経過を要約してみる。

平成24年8月20日〓企画運営委員会からの提案(抜粋)・文化の多様化に対

応した部門、部の改組・会員推挙規定の改正・上記2点に伴う会員数のこれまでに以上の獲得。

平成24年11月12日〓規約第7条の1(準会員)を追加し、次のように定める。

1、各部は準会員制度を設けることが出来る。2、準会員の運営状況については、連文副会長より会長へ報告する。(理由)部の活性化を図り、会員増に結びつける。

平成25年1月21日〓会員増の具体化(部の新設等。ソーシャルダンス部、ジャズダンス部、酒道部、B級グルメ部等)

平成25年3月11日〓連文規約第6条に、6、総合文化部門を設ける。(提案理由)既存の5部門に抱合されない芸術文化分野に対応するため、例えば学芸部を再編し新たな部をここに設ける。

以上のような経過を経て過日の総会で総合文化部門の新設が承認されたのである。以下、西日本新聞記事を抜粋する形で総合文化部門について書いてみる。

連文は1946年「久留米文化の会」として発足、49年に「久留米連合文化会」の名称となり、会員数は689人。これまで文芸、美術、芸能、華道、茶道の5部門の傘下に、22部・17会派を置いて活動してきた。(中略)入会基準を定めた規定を撤廃、部の会員2名以上の推薦を得られれば、入会できるようになった。さら

レ・ン・ブ・ン

追悼古賀ユキ―万感の愛をこめて―

小説部 隈恭徳

「あの柔道着人形、どう思いますか」

初めて書いた小説の表題にダメを出された二十二年前、二人の感覚が一致した一瞬だった。それはあげることが叶わなかった「うだつ」の代わりに申し訳なさそうに揚げられた看板人形だった。

それ以来、青いインクでしたためられた、達筆な読みづらい文字の手紙が、思いついたように届くようになった。僕は一度も返事を書かなかつた。その代わりに、会えることに胸をときめかせながらあなたを訪ねた。あなたはいつも優しい笑顔で迎えてくれた。そして必ず「仕事はどうですか」と尋ねてくれた。そして僕はといえば「ボチボチです」としか答えられなかった。

僕はあなたの話を聞くのが好きだった。あなたは自分の青春の破断を、時折優しい眼差しの奥に憤怒を見せながら、とつとつと話してくれた。僕はそんな時「明治女の気概」を見たような気がするのだった。そして一緒に酒が飲めたらと

に、部門の枠に当てはまらない文化・芸術活動が増えてきていることから総合文化部門を新設、会員数の増加を目指すことも決めた。

以上が新聞記事よりの抜粋である。受け皿は出来たのである。あとは会員一人ひとりが驕りを捨て誇りを持ち、過去の栄光を引きずり自画自賛することなく、後からついてくる評価を甘受することである。そうすればもつと面白い連文になるような気がしてやまない。

(企画運営委員 文芸部門・隈恭徳)

思わずにはいられなかった。

「あなたより先に生まれているけどあなたに先生と呼ばれる筋合いはない」一瞬間周囲の空気が凍りついた。それでもあなたは意に介することなく優しいまなざしを向けていた。見た目九割という昨今、あなたが残してくれた一割の矍鑠たる精神は僕の中で脈々と受け継がれていくと確信している。

「あの看板人形はどこに行つたんですかね」

僕は玄かな風の中で生きているあなたに問うてみたいと思います。もし青いインクがなくなつて手紙が書けないのなら、今度あなたに会いに行くときに黒いインク瓶を持って行きたいと思っています。それではおいとまです。ありがとうございます。

(古賀ユキ略歴 平成2年より10年間副会長、平成13年より顧問、後に名誉会員 平成25年1月18日102歳にて逝去)

青木繁を偲んで

第60回 けしけし祭

3月24日(日)午前11時、およそ200名がかぶと山の山頂に集い、青木繁画伯を偲びました。

献酒、祭文朗読(榎原市長)の後、山本小学校3年生による青木繁研究発表があり、「母います国」がバイオリンの伴奏で合唱されました。



連文会員による献花・献茶・献書・献句・献歌も行われました。

「献花」坂本 信子 (華道部)

「献茶」森田 宗尚 (茶道部)

「献書」石田 洋子 (書道部)

「献句」大日方 明美 (俳句部)

繁忌や咲き揃ひゆく花あしび

黒田 充女

花馬酔木ばかりの丘や繁の忌

大嶋 シゲ子

繁の碑芽ぶきの中にかこまれて

中島 千佳

「献句」堤日出緒 (川柳部)

呪詛捨てた歌碑へ一献参らせる

堤日出緒

風と来て故郷見渡しカッポ酒

中野 スマ子

「献歌」白石 厚子 (短歌部)

夭折の君の無念を偲びつゝ、

カッポ酒酌むけしけし山に

白石 厚子

来賓の鳩山邦夫衆議院議員から「青木

繁と石橋正二郎の思い出」が披露され、

今年も東京から参加された画伯の親族・

高山喜一郎様からご挨拶がありました。

式典終了後は、全員でかつぽ酒を飲み

ながら青木画伯を偲びました。

(事務局)

第11回 ジュニア青木繁展

絵画の部 1月15日(火)～19日(土)、書道の部 1月21日(月)～26日(土)、久留米市庁舎2階のホワイエ・アトスペースにて開催しました。

小・中・高校生を対象にした公募展で、

今回は絵画の部に352点、書道の部に2456点の応募があり、それぞれの入賞・入選作品(絵画278点、書道819点)が展示されました。

表彰式は1月19日(土)、市庁舎2階のくろみホールで行いました。

(評)

大賞 書道の部

高校2年 辛嶋 眞衣 さん

古典を良く学び、古代ロマンの香り漂う堂々とした臨書作品です。用紙にも新鮮な工夫があり、現代の高校生らしい若々しさも感じられます。この美しい蕾が、大輪の花を咲かせることを期待しています。

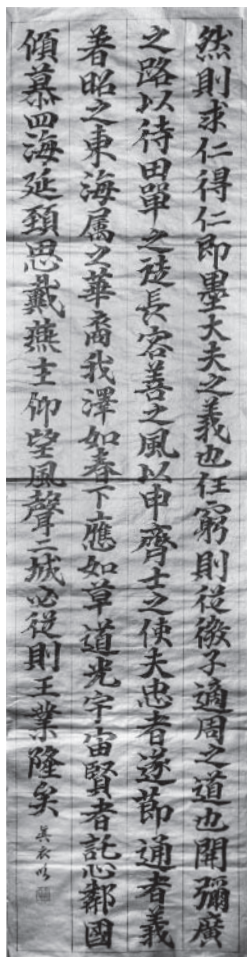
(書道部長・佐川 大羊)

大賞 絵画の部

小学校3年 柳 守優 君

編み物をする家族の姿が丁寧に描かれていて、暖かい雰囲気になった作品になっています。色彩的にも構成的にも優れた描写力を感じました。

(洋画部長・丸山 孝晴)



県営筑後広域公園
芸術文化交流施設

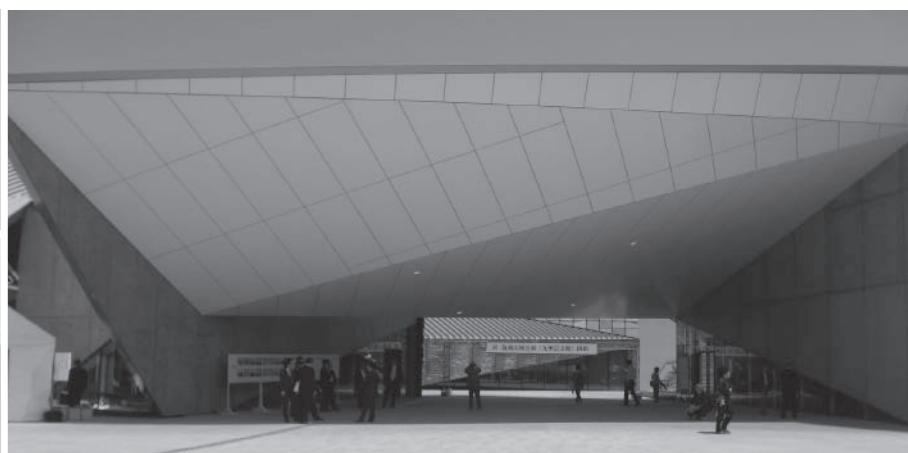
九州芸文館 オープン

九州芸文館館長
連文理事 津留 誠一



久留米連合文
化会の元会長・
豊田勝秋先生は、
奥様が本阿弥家
の一人娘だった

こともあり、深く本阿弥光悦を敬愛されて
いました。私の学生時代から、光悦が
京都に作った「鷹ヶ峯(芸術村)」や武者
小路実篤の「新しき村」のような理想郷
を作りたいというお話をよく聞かされ
ていました。終戦後すぐ筑後市赤坂で、
ゴム3社とともに陶芸を中心とした芸
術村建設を開始されましたが、工業試験
場の運営に携われることになり中断。佐
賀大学を退官された昭和40年代には、八
女市岡山のご自分の知行地で再考され
ましたが、これも西日本短大建設で中止
した。私たちは久留米連合文化会や九州
彫刻家連盟・NPO法人の活動を続け
て50年...やっと、筑後の地に芸術文化活



動の中心施設ができました。

九州芸文館は、福岡県が県内4地区の
均衡ある発展を願って平成4年から構
想し、23の候補地から決定した筑後広域
公園の中に、平成25年4月27日に開館し
ました。筑後地域の芸術文化関連団体や
街づくり団体等との連携を図りながら、
地域やアジアに向けて情報発信と交流
を進め、筑後地域の芸術文化の発展に寄
与することを目的としています。

九州芸文館は、美術館や博物館ではな
く、多目的な体験型文化施設です。活動
の柱に「芸術文化事業」「交流事業」「体験
事業」の3本を立てて、イベントや体験
講座、交流事業を中心に運営します。

開館記念芸術文化事業として「201
3福岡県美術協会筑後地区会員秀作展」
を5月1日から6月2日まで開催。連文
の会員を含む約130名の作家が出品
展示して、1カ月で延べ8千人の入場者
を得ました。同時に「福岡県立美術館コ
レクション展」も開催されました。

体験講座は、絵画、書道、陶芸など14の
講座が始まりました。今年の交流事業で
は、「九州クリエイターズマーケット」
「卑弥呼の火祭り」「深町宏と音楽の夕
べ」「調香体験(香水作り)」「名月寄席」な
どを行います。

筑後地域の芸術文化活動の拠点とし
て、皆さまのご活用をお待ちしておりま
す。

2013福岡県美術協会 筑後地区会員秀作展

「2013福岡県美術協会・筑後地区
会員秀作展」は公益社団法人福岡県美術
協会・筑後地区会員の相互の研鑽と地
域との豊かな交流をはかるために開催
されました。県内の地区の持ち回りで3
回目、今回は筑後地区の開催となり連文
美術部門の会員が多く参加しました。

県展に出品できない大作や新作旧作
を問わない力作が出品され「九州芸文
館」のオープニングを飾るにふさわしい
展覧会となりました。



第2回 日本画部展を終えて

第2回日本画部展を3月12日(火)より17日(日)まで、久留米一番街多目的ギャラリーにて行いました。広く市民の方々に日本画に親しんでいただきたいとの主旨から、隔年で開催しています。



近年、会員の高齢化により退会者が相次ぎ、10名での催しとなりましたが、四季の花や風景など24点を並べました。会期中、東町公園で久留米市と中国とのB級グルメ・コラボレーションが行われましたが、好みの違いなのか、公園側からの入場者はほとんどありませんでした。また部展の会場として、北野町図書館、田主丸そよ風ホールなどが候補に上りましたが、それぞれに一長一短があり実現には至りませんでした。

(日本画部・小川寿一)

第59回 連文茶道部大茶会

4月21日(日)、牡丹が咲き新緑も美しい少林寺で恒例の大茶会を開催しました。一席 大日本茶道学会、二席 日本礼道小笠原流、三席 江戸千家、受付 裏千家と4流派が担当しました。朝方の雨も茶会が始まる頃には止んで、茶席も満席で600余名の方で賑わいました。

(茶道部・池田蒼紀)



第7回 連文工芸部展

5月14日(火)より19日(日)まで、えーるピア久留米・市民ギャラリーで開催。色鮮やかな染色、パッチワークと人形や陶芸作品など、個性豊かな作品が揃い、累計で400名以上の方々に楽しんでいただきました。

今年で7回目を迎えた工芸部展ですが、高齢化や多忙化によるメンバーの減少が続いています。人数は少なくなりましたが、良い作品を作ることによって、見る人の心が豊かになる—その想いを胸に、私たちはこれからも地道な活動と作品制作に励んでまいります。

(工芸部・廣藤圭)



第47回 仲縄忌俳句大会

6月27日(木)、寺町遍照院に於いて高山彦九郎先生の二百二十一回忌の法要のあとの句会を日吉神社社務所において致しました。今年は思いがけず晴れの日を賜りましたのが印象的でした。

選者3名の特選句(◎)佳作句は次の通りです。

谷川章子選

◎万緑の中の日の丸以白の忌

野口桂子

静けさが涼しさを呼ぶ寺の朝

笠貴美子

志士の忌や涼しくすすみゆく献茶

黒田充女

小川順子選

◎志士の忌やこの梅雨晴は天意とも

黒田充女

約束のやうに振花咲く忌日

大日方明美

風薫る市長の献酒仲縄忌

井手重視

黒田充女選

◎約束のやうに振花咲く忌日

大日方明美

万緑の中の日の丸以白の忌

野口桂子

羅に包む忌心献茶の儀

笠貴美子

(俳句部・黒田充女)

【○日誌○報告】report RENBUN CALENDAR

平成25年 1月～7月初旬

文推協ニューイヤークンサート

心象会展(水墨画)

連文役員新年会

第11回ジュニア青木繁展

げきであそぼ！子ども文化体験講座

白房会日本画展

くるめ市民劇団ほとめぎ倶楽部公演「銀河鉄道の夜」

第2回日本画部展

茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白会)

第60回けしけし祭

青木繁旧居 華道展(草月流万年青会中野松芳社中・八尋峰子(工芸部))

日本舞踊勉強会

合同歌集「久留米歌壇」第28集

中村玉絹 夫婦展

第64回西部水彩公募展

古川教室第16回水墨画展

第59回連文茶道部大茶会

Triangles Amis(久留米市芸術奨励賞受賞記念コンサート)

久留米文学第60号

久留米児童合唱団第42回定期演奏会

第7回連文工芸部会員展

毛利陽出春 大理石彫刻展

平成25年度連文定期総会・祝賀会

池坊福岡花展

第49回久留米短歌大会

第53回郷土民謡民舞全国大会・第38回九州地区予選大会

水道週間呈茶

田本春香ソプラノリサイタル

第47回仲縄忌俳句大会

短歌部歌評会

アサバリエアカデミア公演「コッペリア」(久留米市芸術奨励賞受賞記念公演 7/13(土)・久留米市民会館)

古賀 ユキさん(小説部名誉会員)

上津遊 豊延さん(華道部)

一富 忠さん(写真部)

平成25年 8月～12月

【○芸術散策○行事のお知らせ】information RENBUN CALENDAR

フジタバレエ研究所第31回バレエリサイタル「ドン・キホーテ」8/11(日)・久留米市民会館

倉敷児童合唱団・久留米児童合唱団交歓演奏会 8/17(土)・石橋文化ホール

管弦楽団「響」第6回演奏会 8/18(日)・石橋文化ホール

天神ダンススクール・サマー発表会 8/25(日)・ホテルニュープラザ

柿原聰展 8/27(火)～9/1(日)・石橋美術館1Fギャラリ

創元会第33回福岡支部展 9/4(水)～8(日)・石橋美術館1Fギャラリ

町おこしと新しい彫刻におけるパブリックアート 9月予定 9/4(水)～9(月)・岩田屋久留米店

第33回連文会員華道展 9/7(土)・えーるピア久留米視聴覚ホール

原浩美「ピアノリサイタル」 9/7(土)・8(日)・石橋文化会館小ホール

劇団PROJECTぴあ劇団公演 9/15(日)・九州芸文館大交流室

久留米吟詠道連盟第54回吟剣詩舞道大会 9/20(日)・久留米市民会館小ホール

第17回下水道フェア呈茶席 9/23(月)・南部浄化センター

第62回久留米市総合美術展 10/2(水)～20(日)・石橋美術館1Fギャラリ

第43回連文会員美術展 10/2(水)～20(日)・石橋美術館1Fギャラリ

平成25年度おさらい会(川会) 10/13(日)・久留米市民会館

木村フォトセミナー写真展2013 10/16(水)～20(日)・えーるピア久留米市民ギャラリー

第49回久留米三曲協会定期演奏会 10/20(日)・石橋文化センター共同ホール

第9回久留米ジュニア川柳誌上大会(表彰式) 10/26(土)・久留米市庁舎くるみホール

第41回書作家展(連文・書道部) 10/23(水)～27(日)・石橋美術館1Fギャラリ

第25回南祥会書作家展 11/5(火)～9(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー

第67回久留米茶道連合法要大茶会 11/10(日)・梅林寺

第65回西部示現会展 11/12(水)～17(日)・石橋美術館1Fギャラリ

第60回桃書忌俳句大会 11/23(祝)・御井校区コミュニティセンター

筑後・詩の集い 11月予定

裏千家淡交会久留米支部第60回歳末助け合い茶会 12/1(日)・くるめりあ六ツ門

第19回賢順記念くめ全国筆曲祭 12/7(土)・石橋文化ホール

舞台アート工房・劇列車定期公演「親と子の民話劇場」12/6(金)～8(日)・木下楽器すわの店イベントホール

スタジオDD・クリスマスコンサート 12/8(日)・サザンクス筑後小ホール館

青木繁旧居生け花展示(草月流・万年青会中野松芳社中) 12/8(日)・サザンクス筑後小ホール館

JR久留米駅生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流/毎週交代) 通年・JR久留米駅構内

作品募集

第9回久留米ジュニア川柳誌上大会
今年のテーマは「虫」。
市内の児童生徒の皆さんから川柳を募集。応募
期間は8月1日(木)から9月10日(火)まで。(川柳部)

第12回久留米ジュニア青木繁展
児童生徒の皆さんから絵画と書道の作品を募集。
応募期間は12月24日(火)から27日(金)まで。詳しくは
応募要項を参照(事務局にて配布)。(美術部門)